

# アスファルトとゴム製品を併用したハンプ



## ノウハウを有する機関と連携し進め方を的確に選択



04. 沖縄県浦添市  
(港川地区)

### 広域図



登録状況	生活道路対策エリア(区域)
対策の内容	ハンプ設置(スムーズ横断歩道) 他
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 国道 58 号の渋滞を避けた抜け道利用が多い</li> <li>▶ 通行車両の速度が高い</li> <li>▶ 自動車送迎による登校が多く、通学時間帯に校門直近まで自動車が進入</li> </ul>

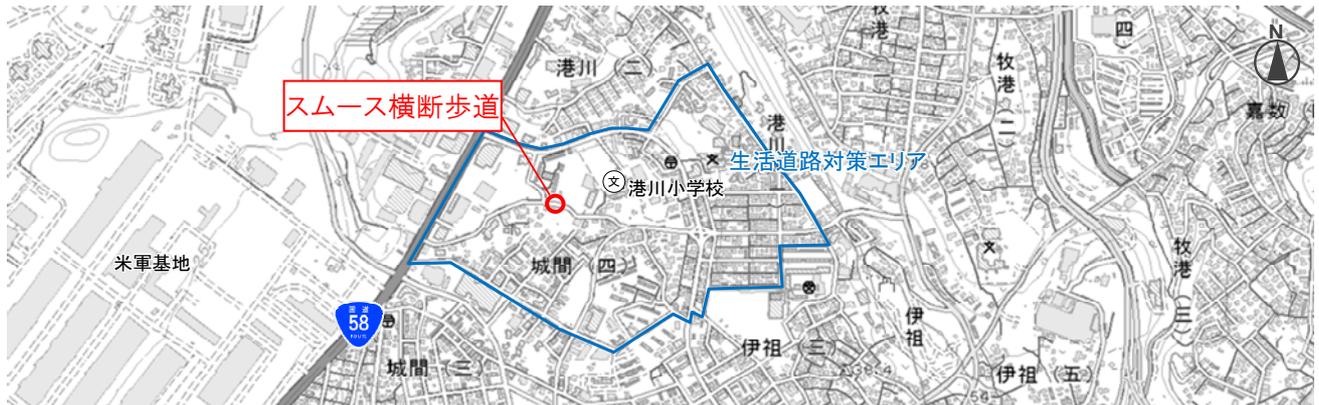
背景の地図の出典: 国土地理院

## 設置の特徴

# アスファルトとゴム製品を併用したハンプ

## ハンプの概要

### 設置箇所



背景の地図の出典: 国土地理院

### 設置内容

	内容	備考
設置箇所数	1 箇所	スムーズ横断歩道
設置時期	2017 年 12 月	社会実験として設置した後に残置
ハンプの形状	<ul style="list-style-type: none"> <li>平坦部の長さ 3m(最短部)</li> <li>ハンプの高さ 10cm</li> <li>傾斜部の勾配 平均 5%</li> </ul>	技術基準を参考
構造及び 付属施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>アスファルト舗装(平坦部)</li> <li>可搬型ゴム製品(傾斜部)</li> <li>ゴム製ポール</li> <li>仮設看板</li> </ul>	横断歩道、停止線を設置
技術的な工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆アスファルトとゴム製品の組み合わせることで<b>道路のカーブに沿った設置を可能にする</b>とともに、傾斜部を理想的な形状(サイン曲線)で設置</li> <li>◆可搬型ゴム製品は、一部に特殊サイズ(幅 25cm)を適用し、道路幅にあわせて設置</li> <li>◆現況の歩道高さ(15cm マウントアップ)をスムーズ横断歩道(高さ 10cm)に合わせて切り下げ、歩きやすさを確保</li> <li>◆ハンプ下の下水道マンホールは、可搬型を外すことで管理</li> <li>◆路面排水がハンプでせき止められることに留意し、街渠ますにドレーンを形成することで排水路に直接落とせるようにした</li> </ul>	

# 設置状況



概観



交通状況



アスファルトとゴム製品の併用



歩道部との擦り付け



ゴム製ポール及び自発光灯



仮設看板

合意形成  
のポイント

# ノウハウを有する機関と連携し 進め方を的確に選択

## 対策実施状況と合意形成の概要

### 対策実施状況 (道路管理者の動き)

### 合意形成の概要

生活道路対策エリア登録(2016.10)



社会実験(2017.12～)  
・スムーズ横断歩道設置

設置(2018.2～)  
・スムーズ横断歩道の残置

#### 2016.12 ワークショップ(第1回)

- 交通安全対策に関する知識の共有
- ※ 課題の洗い出し、問題意識の共有



地域の取り組み(通学路交通安全プログラム)、国際交通安全学会(IATSS)と連携し、対策を円滑に進めるためのノウハウ(ワークショップの必要性、検討内容等)を集結

#### 2017.2 ワークショップ(第2回)

- 客観データによる課題の共有
- 対策案の具体化
- 対策案の留意点の洗い出し



ETC2.0 プローブデータにより、現状の課題をデータで説明することができた

#### 2017.8 ワークショップ(第3回)

- 実施候補対策案(社会実験等)の提案
- 参加者間で対策案への合意形成



横断歩道のみでなく、ハンプを組み合わせた提案とすることで設置に関して警察からの理解・協力が得られた

対策(社会実験)実施に向けた個別説明及び関係機関協議

交通量調査、ビッグデータ分析、アンケート調査

#### 2018.2 ワークショップ(第4回)

- 対策案(社会実験)の評価
- 今後の取り組み



実験の効果、地域の意向を踏まえて本設置に移行

## PDCA 中での合意形成の内容とポイント

段階	説明手法・内容	道路管理者の考える合意形成のポイント 
現況調査 計画策定 <Plan>	<p>❖ ワークショップ（第1回）</p> <p>実施日 2016年12月12日 参加者 自治会、学校関係者、道路管理者、警察署、交通安全関係(市民生活課)、教育委員会、保育関係(保育課)、国際交通安全学会(IATSS)、国土交通省(オブザーバー)</p> <p>❖ ワークショップ（第2回）</p> <p>実施日 2017年2月27日 参加者 自治会、学校関係者、道路管理者、警察署、交通安全関係(市民生活課)、教育委員会、保育関係(保育課)、国際交通安全学会(IATSS)、国土交通省(オブザーバー) 提示資料 交通量調査結果、ビッグデータ、対策メニュー</p> <p>❖ ワークショップ（第3回）</p> <p>実施日 2017年8月30日 参加者 自治会、学校関係者、道路管理者、警察署、交通安全関係(市民生活課)、教育委員会、保育関係(保育課)、国際交通安全学会(IATSS)、国土交通省(オブザーバー) 提示資料 対策案、実証実験計画</p> <p>❖ 社会実験</p> <p>実施日 2017年12月～2018年2月 内容 スムース横断歩道の設置</p> <p>❖ ワークショップ（第4回）</p> <p>実施日 2018年2月9日 参加者 自治会、学校関係者、道路管理者、警察署、交通安全関係(市民生活課)、教育委員会、保育関係(保育課)、国際交通安全学会(IATSS)、国土交通省(オブザーバー) 提示資料 効果検証資料、アンケート結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検討の立ち上げ段階から、浦添市における既存の取り組み(通学路交通安全プログラム)と連携し、対策を検討</li> <li>専門家の参画により、合意形成の進め方や対策に関する確かな知識が得られた</li> <li>現状の課題は、ETC2.0プロブデータを活用することで、住民が感じる感覚をデータでわかりやすく説明できた</li> <li>横断歩道のみでなく、ハンブを組み合わせた提案とすることで設置に関して警察からの理解・協力が得られた</li> <li>可搬型ゴム製品を用いた構造とすることで、“ダメならいつでも撤去する”という姿勢を示し、地域に安心感を与えることができた</li> <li>実験の効果、地域の意向を踏まえて本設置に移行</li> <li>4回のワークショップ実施により、関係者と十分なコミュニケーションを図ることができた</li> </ul>
対策実施 <Do>	<p>❖ 本設置(残置決定)</p> <p>運用開始 2018年2月</p>	

↓

評価  
<Check>

↓

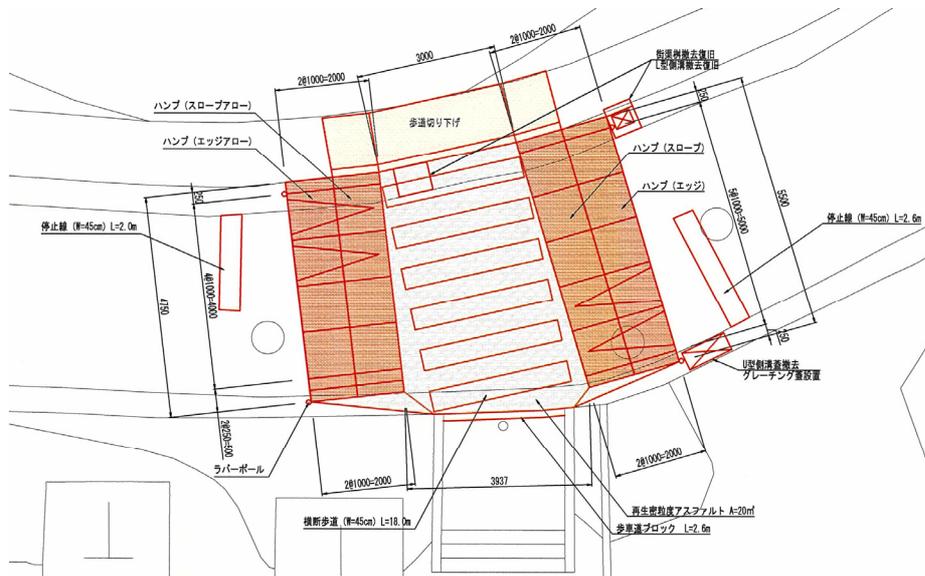
対策改善  
<Action>

## 合意形成における道路管理者からみた特筆事項

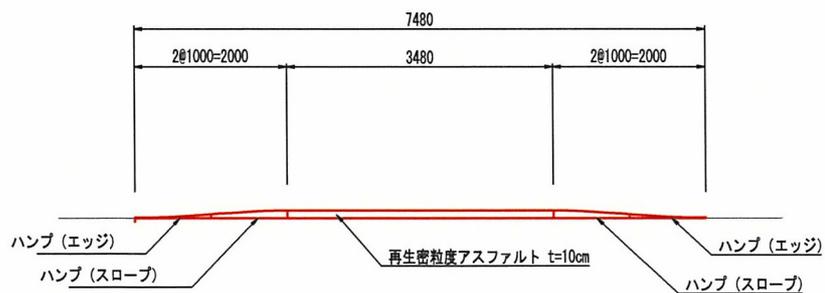
<p>円滑な検討に 結びついた点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 専門家の協力によりの確な進め方を選択できた。</li> <li>◆ 4回のワークショップにより、十分なコミュニケーションを確保した。</li> </ul>
<p>考えられる 今後の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ゴム製品のハンプは、マンホール部分のみ取り外せるような対応ができるとうい。(現場での加工も考えられる)</li> <li>◆ ゴム製ポールに取り付けた自発光灯は紛失したりするため、今後は自発光道路鋸の設置も考えられる。</li> </ul>

## その他参考資料

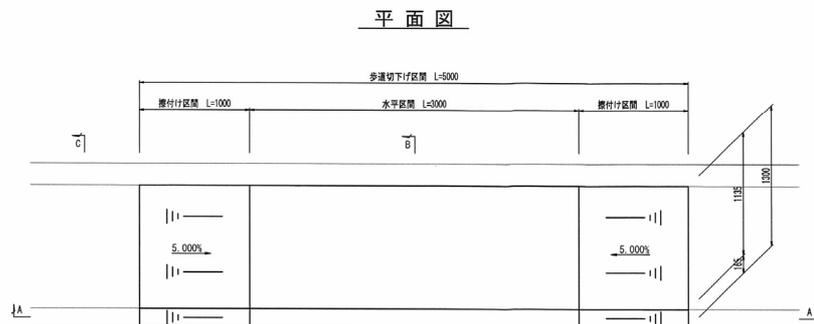
### ❖ 構造図



### ❖ 断面図



### ❖ 平面図



提供：浦添市